

2025年8月期中間決算説明資料

Chordia Therapeutics株式会社
(証券コード：190A)

2025年4月11日

目次

1.	会社概況	P.	3
2.	2025年8月期第2四半期業績	P.	7
3.	パイプラインの進捗状況	P.	10

当社は武田薬品工業からスピントウトした低分子抗がん薬創薬企業

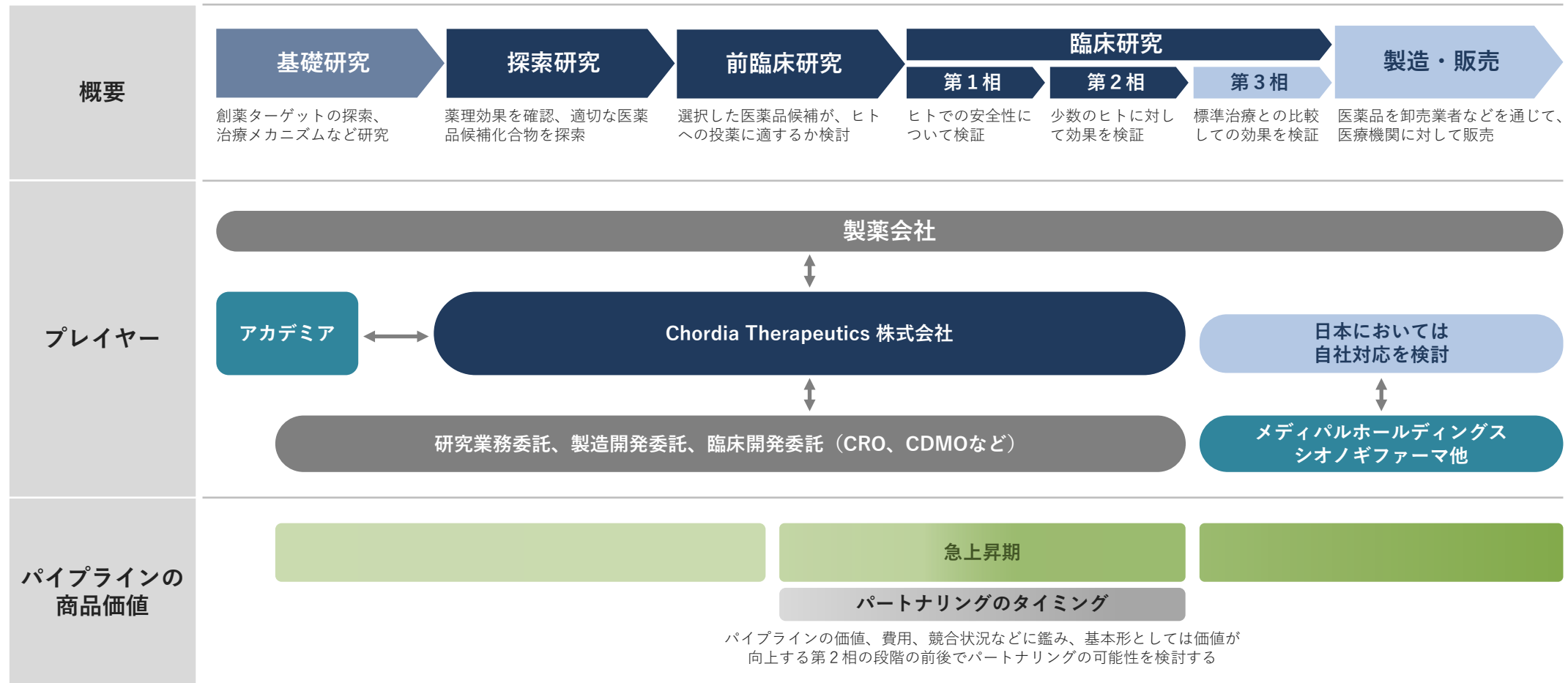
- 2017年10月に創業し、7年弱の期間を順調に推移することで、2024年6月に東証グロース市場に上場を果たす



会社名	Chordia Therapeutics株式会社
証券コード	190A
設立日	2017年10月12日
代表者	代表取締役CEO 三宅 洋
本社所在地	神奈川県藤沢市村岡東2-26-1
社員数	21名
筆頭株主	武田薬品工業（約15%）

臨床POCを確立したパイプラインをもとに高利益なビジネスを目指す

- 探索研究から臨床研究までをコアビジネスとし、製造・販売については国内を自社で行うことを視野にいてビジネスを展開する



投資家株主が社外取締役就任

- 上場前と上場時に当社にクロスオーバー投資を行った新生キャピタルパートナーズの中村代表取締役が2024年11月の株主総会で社外取締役に就任し、従前以上に株主の利益に配慮した経営を行うための体制を構築した

新任社外取締役



中村 学 (なかむら まなぶ)

略歴、当社における地位及び担当（重要な兼職の状況）

1991年 4月	株式会社日本長期信用銀行（現 株式会社SBI新生銀行）
2004年 7月	同行 プライベートエクイティ部次長
2012年 11月	新生企業投資株式会社 取締役
2018年 4月	新生キャピタルパートナーズ株式会社 代表取締役（現任）
2019年 4月	当社 社外取締役
2019年 4月	AlphaNavi Pharma株式会社 社外取締役（現任）
2021年 4月	当社 社外取締役退任

（重要な兼職の状況）

新生キャピタルパートナーズ株式会社 代表取締役
AlphaNavi Pharma株式会社 社外取締役

目次

1.	会社概況	P.	3
2.	2025年8月期第2四半期業績	P.	7
3.	パイプラインの進捗状況	P.	10

2025年8月期 第2四半期（中間期）の財政状態（貸借対照表）

- 現預金が減少し、流動資産、純資産が共に減少した

単位：百万円

	2024年8月期末 残高	2025年2月期 残高	増減
流動資産	4,605	3,426	-1,178
現預金	4,329	3,276	-1,053
固定資産	26	24	-2
資産合計	4,632	3,451	-1,181
流動負債	471	204	-266
固定負債	0	0	0
負債合計	471	204	-267
純資産合計	4,161	3,246	-914
負債及び純資産合計	4,632	3,451	-1,180

2025年2月期のポイント

- **流動資産、純資産：**

- ・ 現預金と純資産：研究開発への先行投資で現預金が減少

- **流動負債：**

- ・ 未払金：rogocekib治験薬の製造費支払いで減少

2025年8月期 第2四半期（中間期）の業績（損益計算書）

- 事業収益なく営業損失、純損失を計上。R&D費用については、CTX-712の臨床試験費用は増加し、それ以外のコストは圧縮したが前年同中間期比で増加。

単位：百万円

	2024年2月期 実績	2025年2月期 実績	増減
事業収益	-	-	-
直接費	0	0	0
R&D費用	671	799	+128
rogocekib (CTX-712)	410	624	+214
CTX-177	1	0	-1
CTX-439	85	11	-74
その他（含む人件費）	174	163	-11
その他一般管理費	138	196	+58
営業損失	-809	-996	-187
営業外収益	11	23	-12
営業外支出	3	2	-1
税引前当期純損失	-801	-975	-174
法人税等	1	1	0
当期純損失	-802	-976	-174

2025年2月期のポイント

- **rogocekib: CTX-712 (CLK) :**
 - ・米国での第1/2相臨床試験において、これまでに29症例を登録済み
- **CTX-177 (MALT1) :**
 - ・導出先の小野薬品工業株式会社が日米で臨床試験実施中。当社負担は発生しない。
- **CTX-439 (CDK12) :**
 - ・開発パートナーの探索中でありR&D費用は減少

目次

1.	会社概況	P.	3
2.	2025年8月第2四半期業績	P.	7
3.	パイプラインの進捗状況	P.	10

5つのパイプラインのうち、2つは臨床ステージ

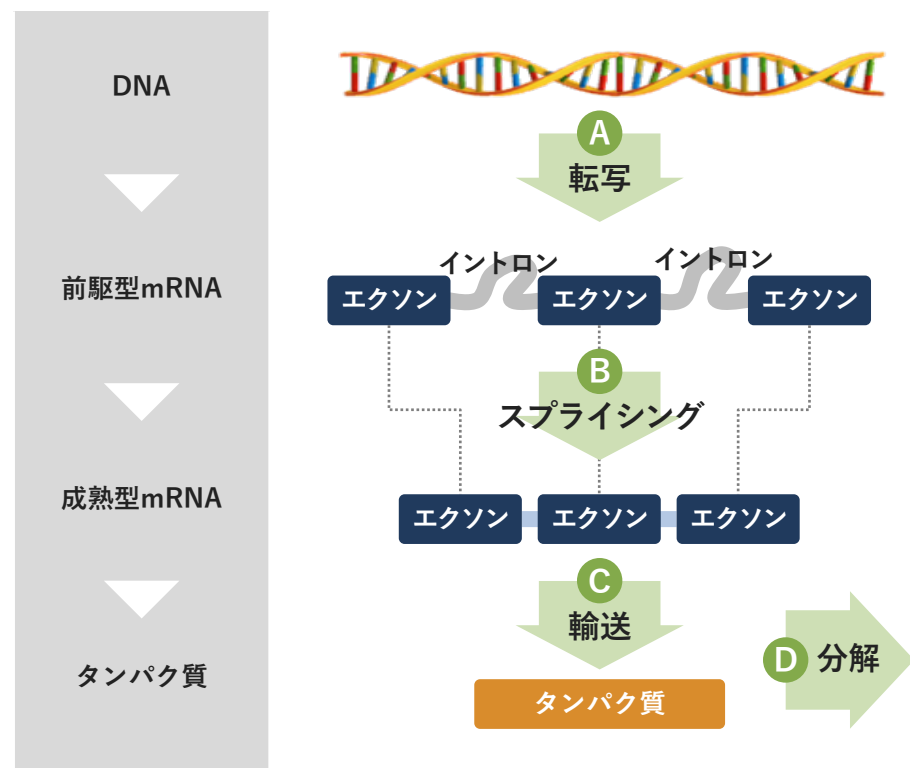
- 自社で臨床試験を実施しているrogocekibと小野薬品工業が臨床試験を実施しているCTX-177の2つのパイプラインが臨床ステージに入っている

	標的	開発コード	一般名称	主な適用がん種	開発ステージ	現時点での 想定オプション
①	CLK阻害薬	CTX-712	rogocekib	急性骨髄性白血病(AML)、 骨髄異形成症候群(MDS)、 卵巣がん、その他固形がん	日本第1相試験終了、 米国第1/2相試験中	自社開発・販売 (日本国内)
②	MALT1阻害薬	CTX-177		リンパ系腫瘍	米国第1相試験中	ライセンス導出
③	CDK12阻害薬	CTX-439		固形がん	前臨床試験終了済み	ライセンス導出
④	GCN2阻害薬	開発コード なし		固形がん、血液がん	前臨床試験	ライセンス導出
⑤	非公開	開発コード なし		固形がん、血液がん	前臨床試験	未定

RNAの生成プロセスと当社のパイプラインが作用する各過程

- CTX-177（MALT1阻害薬）を除く当社のパイプラインは、RNAを生成するそれぞれの過程に対して作用し、細胞に更なる負荷を掛けることで、既に負荷がかかっているがん細胞を選択的に死滅させる作用機序を持つ

正常なRNAを生成し、タンパク質を生成する過程



A：転写

当社パイプライン：CTX-439(CDK12阻害薬)

DNA情報をmRNAに写しとる過程。この転写過程を直接つかさどっている重要なタンパク質としてRNAポリメラーゼが知られている。RNAポリメラーゼはDNAを鋳型として前駆型mRNAを作る

B：スプライシング

当社パイプライン：rogoce kib: CTX-712(CLK阻害薬)

転写後の前駆型mRNAはタンパク質を作るために必要なエクソン配列に加えてタンパク質合成に不要なイントロン配列の両方を含んでいるため、エクソン配列を繋げ、イントロン配列を取り除き、成熟型mRNAを作る過程

C：輸送

当社パイプライン：GCN2阻害薬

スプライシングを受けた成熟型mRNAやタンパク質を作るために必要なトランスファーRNA (tRNA) をタンパク質合成の場に輸送する過程。

D：分解

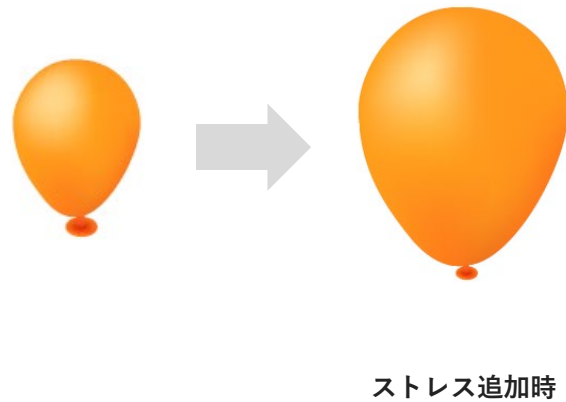
当社パイプライン：新規パイプライン（標的非開示）

タンパク質合成の鋳型として役割を果たしたmRNAやtRNAが分解される過程。

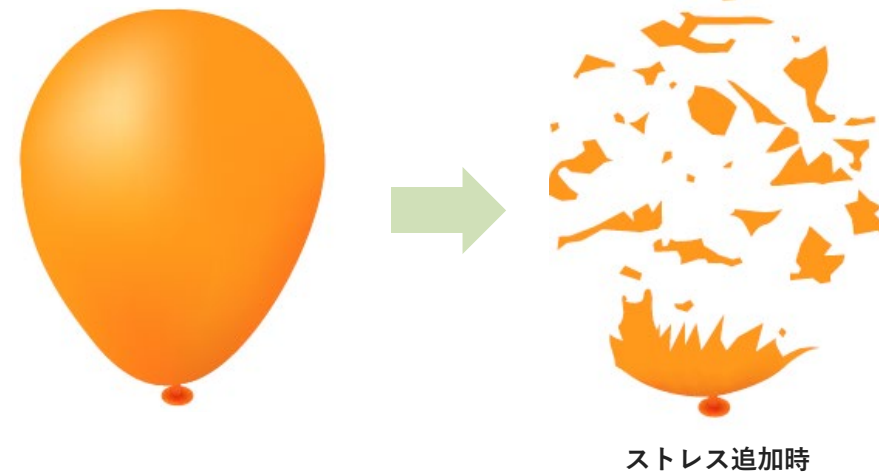
当社が手掛ける抗がん薬のコンセプト

- がん細胞に比べてストレスがない正常細胞は、追加のストレスにはある程度耐えうる（左図）
- 既に大きなストレスがかかっているがん細胞に追加でストレスを加えると、がん細胞は耐えることが出来ずに死滅するものと期待される（右図）

正常細胞



がん細胞

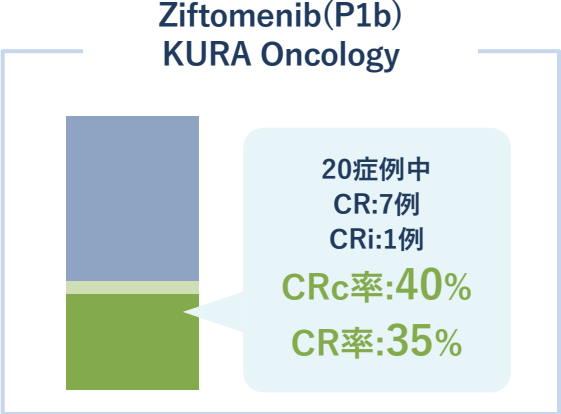
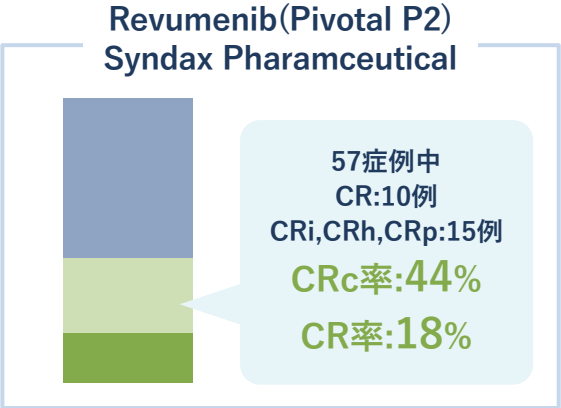
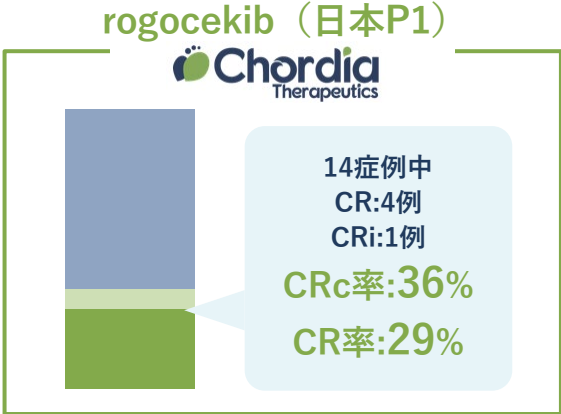


*イメージを示すためのみのものです。当社作成

直近でのFDAにて承認・承認申請を行っている治療薬との比較

● 単剤で承認または承認申請間近の治療薬とも比肩し得る成績。現在は、米国のAMLでの症例数を追加していくことに注力

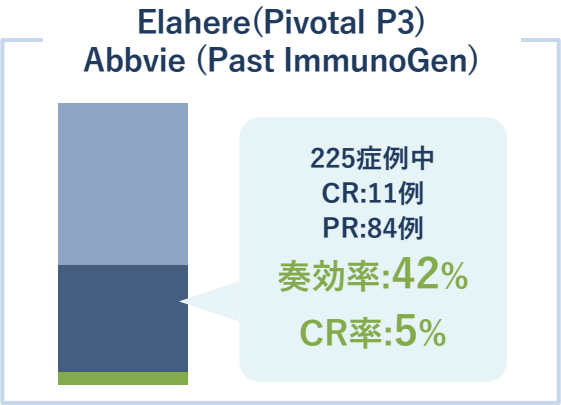
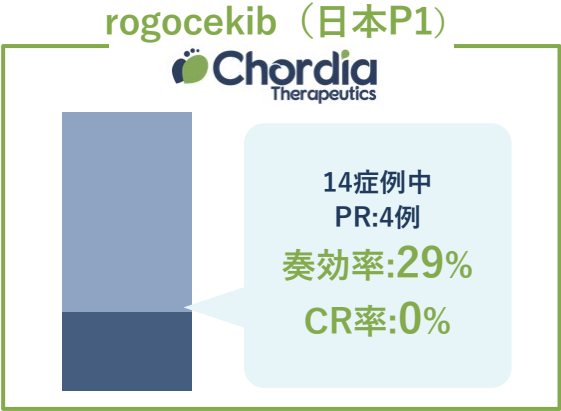
AML



2024年にP2結果で承認

Pivotal P2試験中

卵巣がん



2024年FDAにて承認済み

CR (固形がんおよび血液がん)
 • がん細胞が体内からなくなった正常な状態

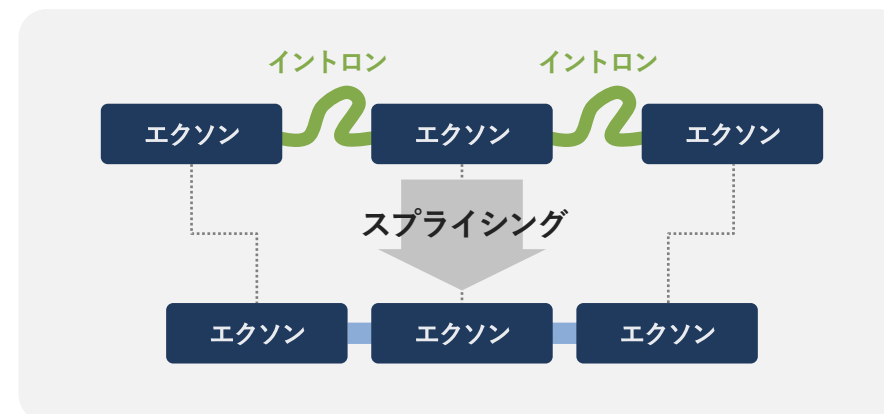
CRc (血液がんのみ)
 • がん細胞が一時的に体内からなくなった状態。正常血液細胞の回復は問わない

PR (固形がんのみ)
 • 腫瘍体積が1/3以下になった状態

■ : CR
 ■ : CRc
 ■ : PR (固形)
 ■ : 奏効なし

CTX-712の国際一般名称はrogocekibに決定

- 医薬品国際一般名称 (INN:International Nonproprietary Name) が世界保健機関 (WHO:World Health Organization) よりrogocekibと決定された



当初予定通りに米国での希少疾病用医薬品指定を受領

- 再発難治性の急性骨髄性白血病（AML）にて当社が開発を進めている CLK 阻害薬 rogocekib について、米国食品医薬品局（FDA）からオーファンドラッグ指定（Orphan Drug Designation(ODD): 希少疾病用医薬品指定)を2025年1月に受理

米国での希少疾病用医薬品指定を受けるメリット

- 承認時申請手数料の免除
- 承認後最長7年間のデータ保護
- 税制優遇

rogocekibの将来的なパイプライン価値の
最大化（含む導出価値）へ大きく貢献する可能性

参考) FDA Guidance Project Optimus の概要

- Project OptimusはFDA によって提言された取り組みで、用法・用量の設定について、第1相臨床試験でより幅広く検討することが促されている。

Guidanceの主たる内容

- 科学的で統合的な用法用量の設定の重要性
 - 臨床試験で幅広い用法・用量の検討
 - PK, PD, 用量反応解析の活用
 - 非臨床試験データの活用
- 開発早期からのFDAとのコミュニケーション

当社の対応

- 科学的で統合的な用法用量の設定の重要性
 - プロトコルを改訂して、週1回に加えて週2回の用法の検討も行う
 - 米国コンサルタント会社を活用して他社事例を分析
- 開発早期からのFDAとのコミュニケーション
 - 第1相臨床試験で十分なデータを集めてFDAと協議する想定

CTX-712の開発マイルストーン

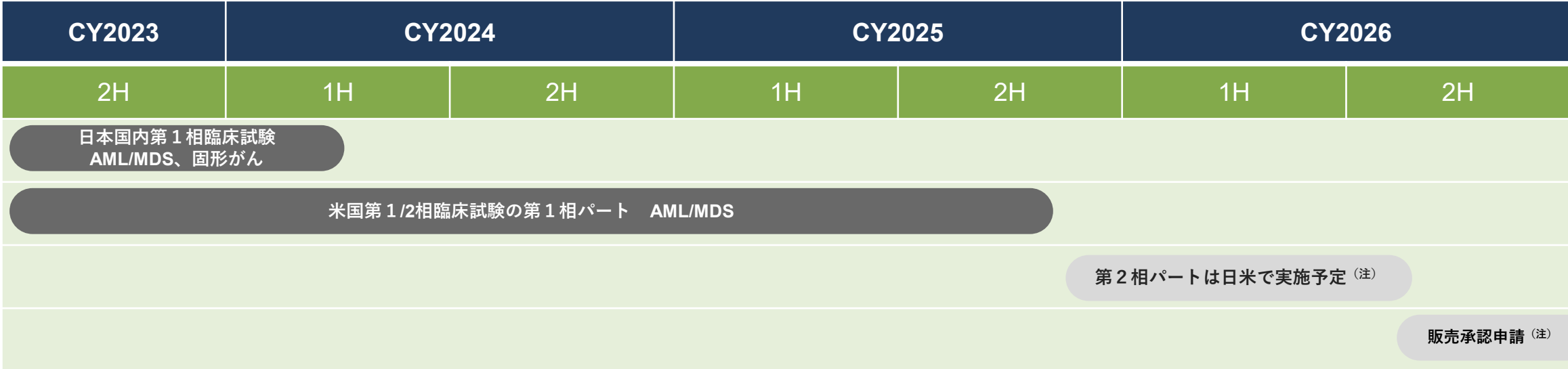
2025年2月時点での達成状況

2H 2024 CTX-712 のOrphan drug designationの申請

現時点での想定マイルストーン

- 2H 2025 CTX-712 の米国臨床試験の第1相中間成績公表
- 2H 2025 CTX-712 の日本／米国臨床試験の第2相試験開始
- 2026 CTX-712 の日本／米国臨床試験の第2相データ取得
- 2026 - 2028 CTX-712の日本での販売承認申請

■ : 実施中



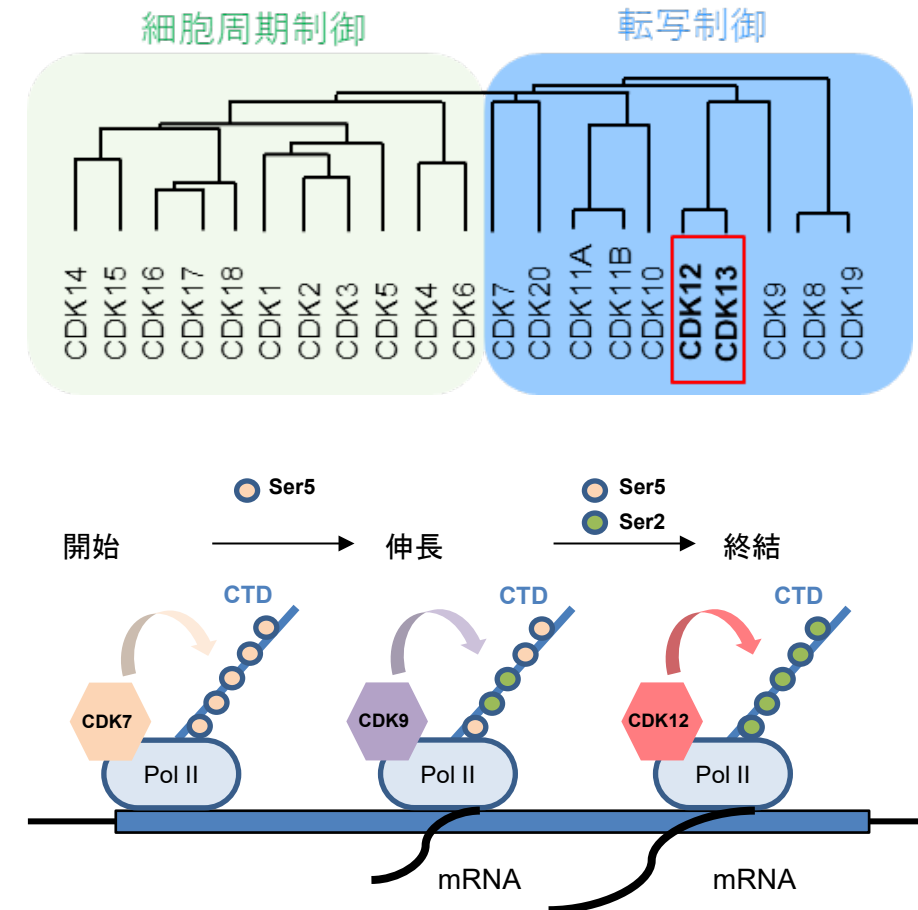
(注) 臨床試験が当社の想定どおりに進行することを前提とした仮定の記載であり、必要な臨床データが当社の想定どおりに収集できない場合や、臨床データが収集できたにもかかわらず何らかの理由により次の臨床試験の実施や承認申請が実施されない、又は実施までに時間を要する場合には、記載された時期と異なる時期に実施される、または全く実施されない可能性がある

CDK12阻害薬 CTX-439

- 臨床試験開始に必要な前臨床データを取り終えた状況であり、社内では開発戦略立案に向けたバイオマーカー研究などを実施中
- 臨床試験開始に向けて戦略的なパートナーを探索中

CTX-439

- 経口投与可能な選択的なCDK12/13キナーゼ阻害薬
- CDK12とCDK13は構造的に近く、機能も重複している
- CDK12/13はRNA転写の主に終結反応を制御する
- CDK12/13の機能を阻害すると転写の早期終結して短鎖型mRNAが生じ、機能の劣ったタンパク質が翻訳されるが、とくにDNA損傷応答に関わる遺伝子群への影響が大きい
- CTX-439は動物モデルにおいて、単剤もしくは既承認薬との併用で抗がん作用を発揮する

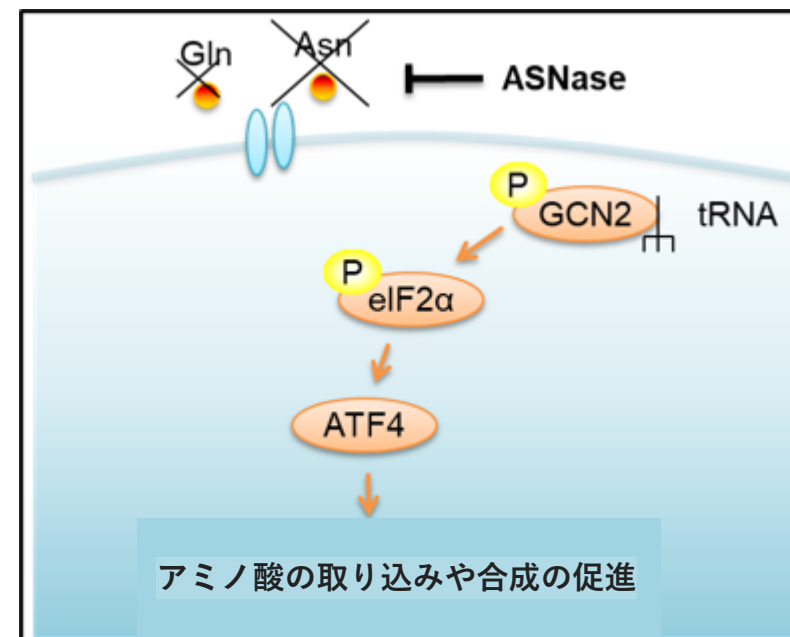


GCN2阻害薬 CRD-099

- 化合物の最適化研究を終え前臨床試験の実施前の状況
- 前臨床試験の開始に向けて戦略的なパートナーを探索中

CRD-099

- 経口投与可能な選択的なGCN2キナーゼ阻害薬
- GCN2は細胞内アミノ酸濃度をモニタリングしているタンパク質で細胞内アミノ酸濃度が低下した状態で活性化される
- GCN2の機能を阻害するとアミノ酸の細胞外からの取り込みや新規合成が進まなくなり、アミノ酸枯渇状態となり細胞死が誘導される
- CRD-099は動物モデルにおいて、アスパラギナーゼなどのアミノ酸濃度を低下させる既承認薬との併用で抗がん作用を発揮する



4件の物質特許とそれを支える複数の用途特許・製法特許

- 武田薬品工業からライセンスを受けた物質特許が十分に特許期間を有していることに加え、臨床入りしているプログラムでは用途特許や製法特許の取得による知財権利の確保を推進し、順調に登録済国数は増加

	出願番号	基礎出願日	国際公開日	国際公開番号	登録済国数	特許権者
rogocekib CTX-712 (CLK阻害薬)	PCT/JP2017/016717	2016年4月28日	2017年11月2日	WO2017/188374	51	武田薬品工業
	PCT/JP2023/013361	2022年3月31日	2023年10月5日	WO2023/190967	—	当社および 国立がん研究センター
	特願2024-003374 (国際出願前)	2024年1月12日	—	—	—	当社
CTX-177 (MALT1阻害薬)	PCT/JP2019/046261	2018年11月28日	2020年6月4日	WO2020/111087	15	武田薬品工業
	PCT/JP2021/019911	2020年5月27日	2021年12月2日	WO2021/241611	—	武田薬品工業
	PCT/JP2023/003154	2022年2月2日	2023年8月10日	WO2023/149450	—	当社および 小野薬品工業
CTX-439 (CDK12阻害薬)	PCT/JP2019/013531	2018年3月29日	2019年10月3日	WO2019/189555	49	武田薬品工業
— (GCN2阻害薬)	PCT/JP2017/028928	2016年8月10日	2018年2月15日	WO2018/030466	25	武田薬品工業

Tomorrow is Another Day

明日に希望を感じる社会の実現

「日本発」「世界初」のこれまでにない新しい抗がん薬を、
一日でも早く患者様のもとに。

———— Mission ————

We are passionate to deliver first in class cancer drugs to patients.

First in Class 抗がん薬を創る

———— 2030 Vision ————

To be an R&D oriented pharmaceutical company based in Japan.

日本発の研究開発型の製薬会社になる

当社の情報開示の方針について

- ・データの発表などは学会の許可を得てからの情報公開となりますが、可能な限り速やかな情報開示を行ってまいります。
- ・個別の質問に対する回答は、フェアディスクロージャーの観点から、控えさせて頂いております。
- ・IRに寄せられた質問に関しては、社内で協議のうえ、適切なタイミングにてホームページ上の「IRよくある質問」ページに回答を追加していきます。

免責事項

- 本資料は、関連情報の開示のみを目的として当社が作成したものであり、米国、日本国またはそれ以外の一切の法域における有価証券の売付けの申込みまたは買付けの申込みの勧誘を構成するものではありません。
- 米国、日本国またはそれ以外の一切の法域において、適用法令に基づく登録もしくは届出またはこれらの免除を受けずに、当社の有価証券の募集または販売を行うことはできません。
- 本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の真実性、正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その真実性、正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。
- 本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。
- 将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。
- 将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。
- 将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。
- 新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

